

災害支援・教育復興にむけて

つなぐ



日教組災害対策本部

〒101-0003

東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

HP:<http://www.jtu-net.or.jp/>

## 連合被災地支援ボランティア 最終24次からつなぐ

期間：2011年9月17日～25日（17・18・25日は移動日）

内容：陸前高田市災害ボランティアセンターの支援活動と大船渡市でのボランティア活動

### 陸前高田市災害ボランティアセンターでの活動



活動内容は、センターに到着する自家用車やバス・歩行者の交通安全確保、資材の整理、作業道具洗浄用水の川からのくみ上げ、敷地の整地などでした。

センターに貼り出してある依頼状を見ると田の草刈りがほとんどで、一般家庭の泥かきや荷物運搬はなく、3月末からの活動当初と比べ、ニーズは変化していました。

悪天候となった19日に、7班の4人で休憩を利用して陸前高田市の中心街に行きました。雑草に覆われた家々のコンクリートの土台が、棚田のように

広がっていました。供えられた花が枯れていた高田病院、水没した野球場、崩壊した堤防、窓が抜けたままの高田高校…。街の時は止まったままのようでした。まったくの灰色の世界の中で、道ばたに咲くピンク色のコスモスが、ようやく過ぎゆく季節を教えてくださいました。

6班が担当した23日は、連休初日で好天ということもあり、平日の倍以上にあたるボランティア参加者900人、バス25台の対応に追われ、とても大変だったそうです。

### 大船渡市でのボランティア活動



私たち7班は、22日は甫嶺駅周辺、23日は越喜来小学校前の側溝かきを行いました。3階まで津波にのまれた越喜来小学校の児童・職員は、日頃の避難訓練の成果により無事でした。近くの崎浜小学校も被災し、両校は甫嶺小学校に間借りしています。3校合同で行った今年の運動会は「にぎやかでよかった」という地域の方の声が印象に残りました。

側溝には、砂と石、ガラス、鉄の棒、包丁、回転のこの刃、1円玉、湯呑み…。様々なものがつまっていてスコップの刃が立たず、溝の壁面からこそぎ落とすように少しずつかきました。

昼休憩の時、同じ地区のボランティアに絆ベルリンで来ているアイルランド人のジョンさんが、声をかけてられました。7班の前田さんの故郷、宮崎県高鍋町の高校で2年ほどALTとして働き、しかも前田さんの勤務校のALTの方とお友だち。現在旅行中で、その道中にボランティアに参加したという偶然に、会話に花が咲きました。



活動終了後に入浴する五葉温泉の売店に、陸前高田のマスカットサイダーが置かれていました。再開を果たした工場が、大船渡との往復のバスの車窓から見えます。緑色のボトルの中身には、子どもの頃に飲んだ粉末のメロンソーダに似た風味がありました。

## 地域との交流会と解団式

24日は、地域の方と交流会を行いました。焼き鳥、おでん、焼きそば、わたがし、ビールサーバーなどが並び、まるでお祭りのようでした。地域からのお礼のミニまとい贈呈、子どもたちの踊り、獅子舞、大人たちの踊りと催しが続きました。大人の踊りには、やがて連合のメンバーも加わり、その輪は盛大になっていきました。

これまで延べ約35,000人が連合から災害支援に参加し、そのうち14,000人が岩手で活動を行いました。廃校となっていた丑石小にも毎晩、ベースキャンプのまばゆい明かりがともりました。しかし、連合の支援活動も終了となり、「どこか企業がこの建物を買い取って、活かして下さったら」という声が、地域の方からぼつりと漏れました。

夜の解団式は、連合岩手やベースキャンプの方々が熱いメッセージを次々と述べられ、「岩手を忘れないで」「離れていてもできるボランティアがある」という言葉が心に刻まれました。



私たちも、本当に仲間に恵まれました。ともに陸前高田で言葉を失い、ときに真剣に議論し、そして日々あらたな発見がありました。終盤の頃には、もう1週間ボランティア活動が続いたらなあ、という気持ちもわいてきました。

連合ボランティア活動を記録する筆は、今回で絶えることとなりますが、自分に何ができるか考え、これから私たちが被災地復興にむけ「つなぐ」時であると思っています。